

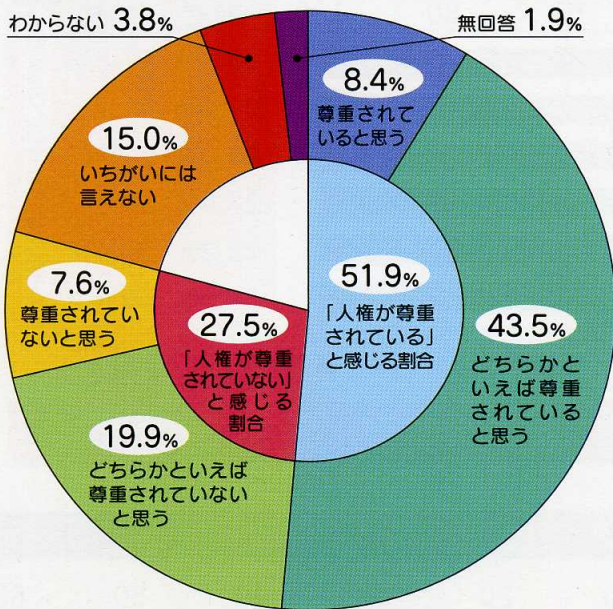
# 平成19年度 福岡市 人権問題に関する 市民意識調査 結果の概要





# 人権問題全般について

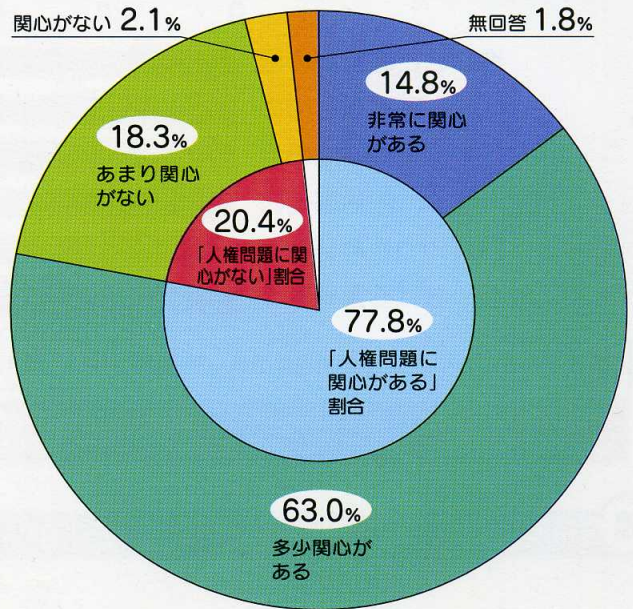
## 問 人権が尊重されている社会と思うかどうか



前回(平成14年度・2002年度)の数値

- ・「人権が尊重されている」と感じる割合 52.5%
- ・「人権が尊重されていない」と感じる割合 24.7%

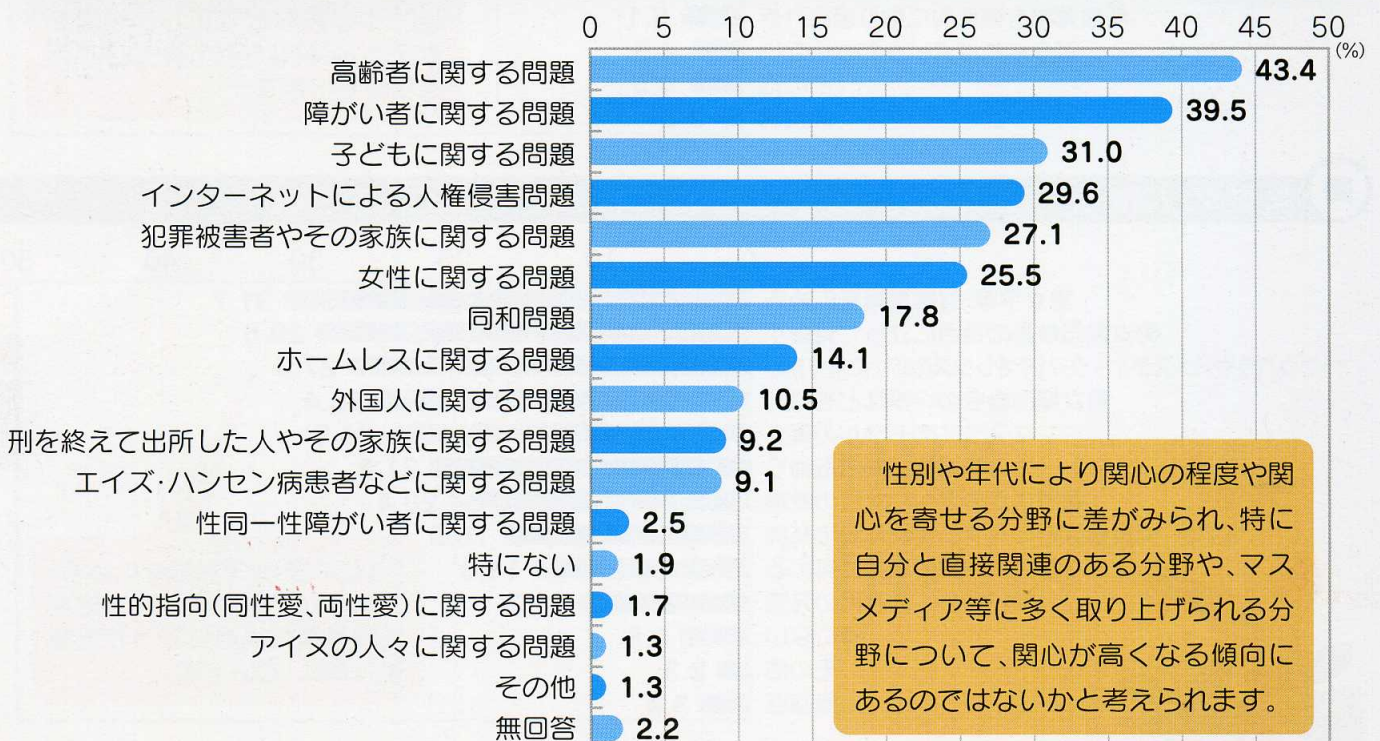
## 問 人権問題への関心



前回(平成14年度・2002年度)の数値

- ・「人権問題に関心がある」割合 74.5%
- ・「人権問題に関心がない」割合 24.4%

## 問 関心を寄せる人権問題(3つまで選択)



性別や年代により関心の程度や関心を寄せる分野に差がみられ、特に自分と直接関連のある分野や、マスメディア等に多く取り上げられる分野について、関心が高くなる傾向にあるのではないかと考えられます。



問 差別をされたと思った経験及び差別をした経験(3つまで選択)

差別をされたと思った経験とその事柄



差別をした経験とその事柄



問 具体的事例に関わる中での差別意識について

1. 同和地区と同じ通学地域にある住宅購入をやめた態度についての考え

選択肢	19年度 (%) (2007年度)	14年度 (%) (2002年度)
同和地区と同じ学校に通わせたくないとするのは差別	41.0	43.2
子どものことを考えてやめたのだから差別とは言えない	13.0	10.2
いちがいには言えない	43.2	44.3
無回答	2.9	2.3

「いちがいには言えない」と「差別とは言えない」を合わせた割合は、前回よりも高くなっています。

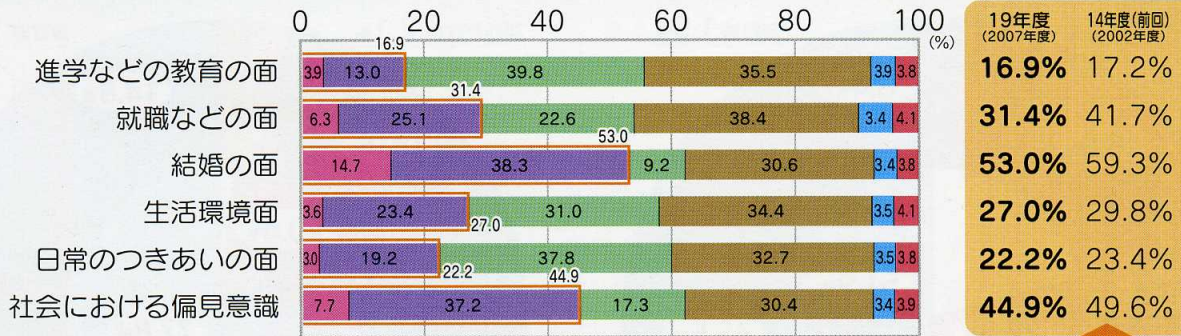
2. 在日外国人への貸家を断る態度についての考え

選択肢	19年度 (%) (2007年度)	14年度 (%) (2002年度)
外国人という理由で、家を貸すことを断ったのは差別	37.5	40.5
家主の権利であるから差別とは言えない	25.9	25.4
いちがいには言えない	34.4	31.9
無回答	2.3	2.2



# 様々な人権問題について

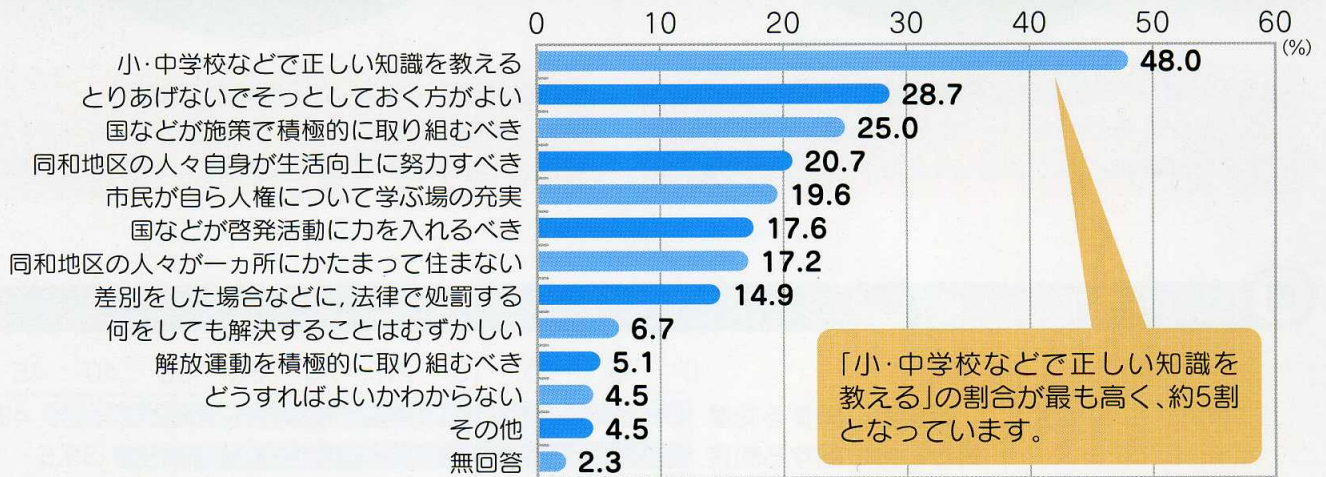
## 問 同和問題について、いまなお差別があると思うかどうか



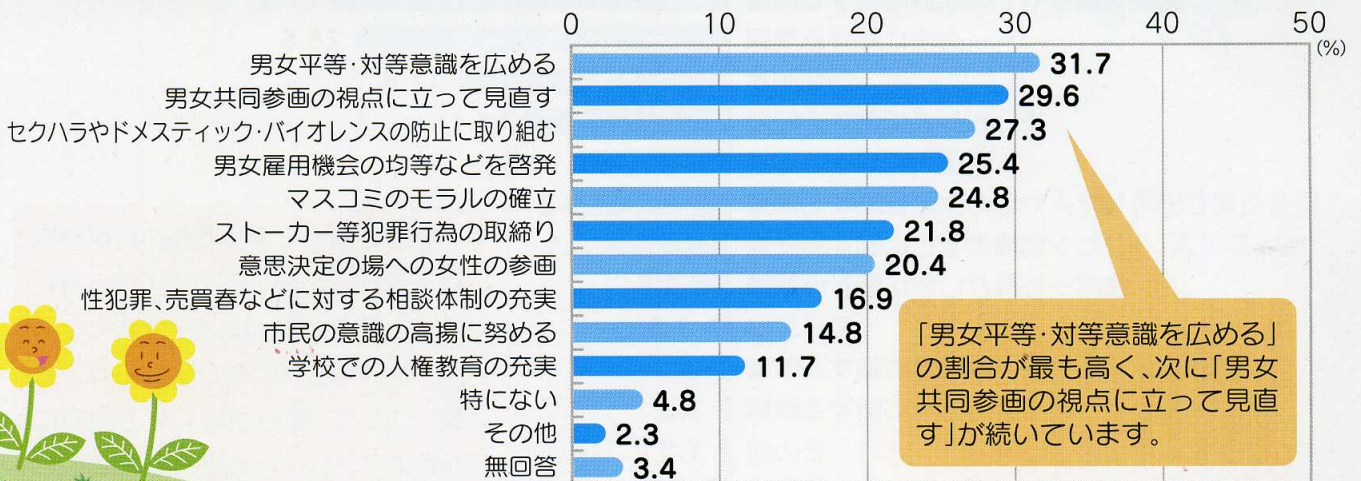
「差別はきびしい」+「多少差別はある」

差別が残っているという認識「差別はきびしい」+「多少差別はある」については、前回より減少傾向にあります。しかし、「結婚」「社会における偏見意識」「就職」の面などでは、現在も高いことがわかります。

## 問 同和問題解決への望ましい方向性(3つまで選択)

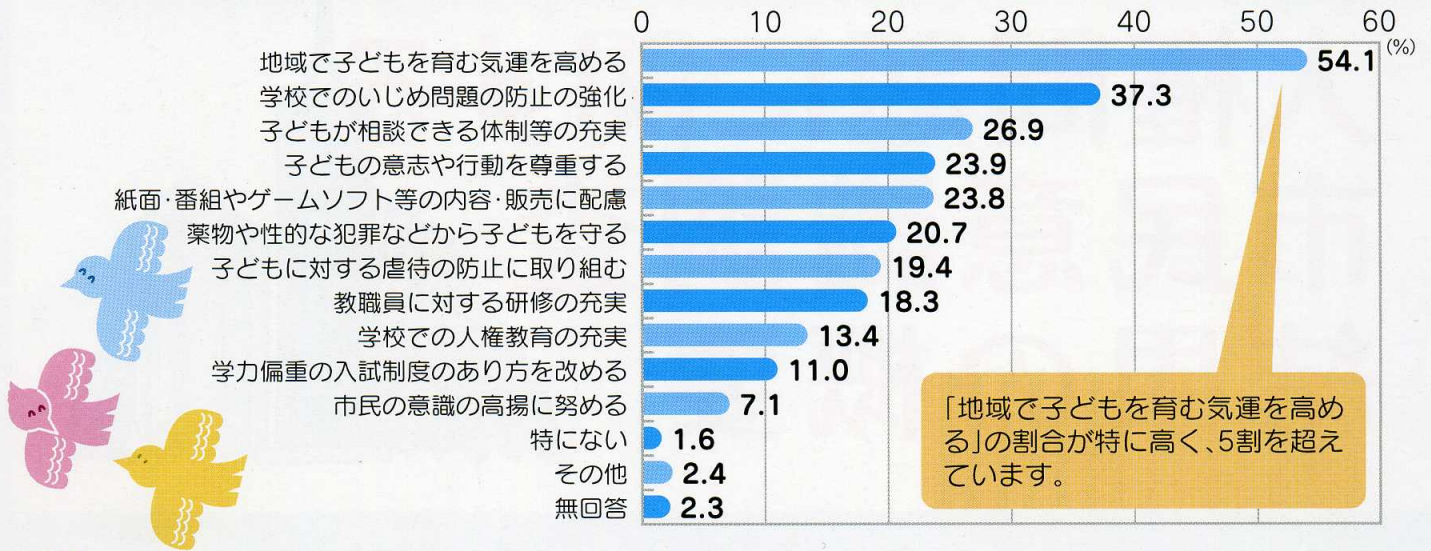


## 問 女性の人権を守るために必要だとと思われること(3つまで選択)

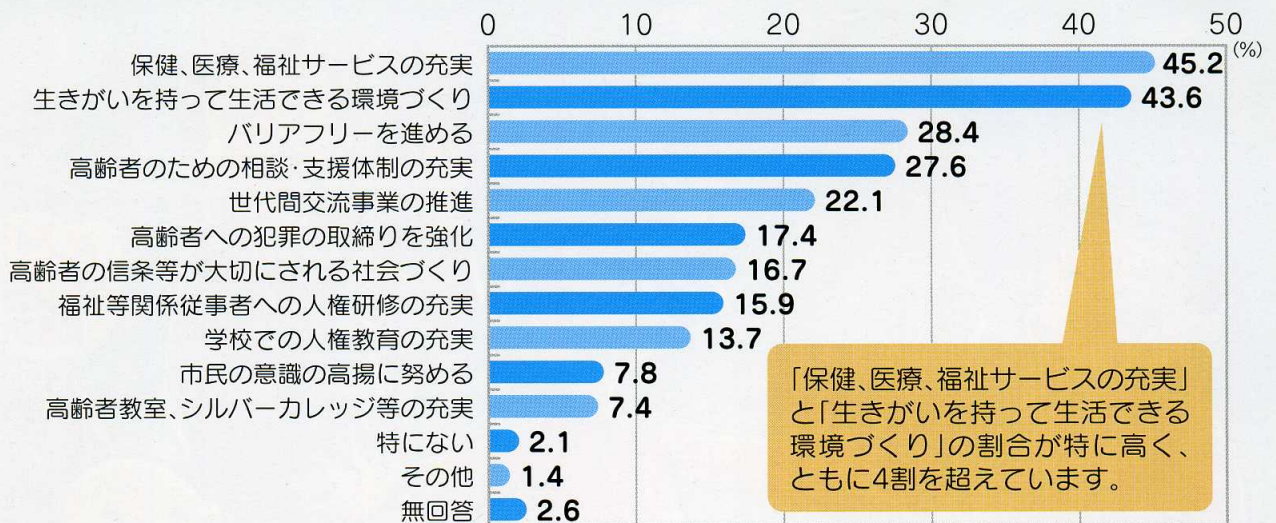




問 子どもの人権を守るために必要だと思われること(3つまで選択)



問 高齢者の人権を守るために必要だと思われること(3つまで選択)



問 障がい者の人権を守るために必要だと思われること(3つまで選択)

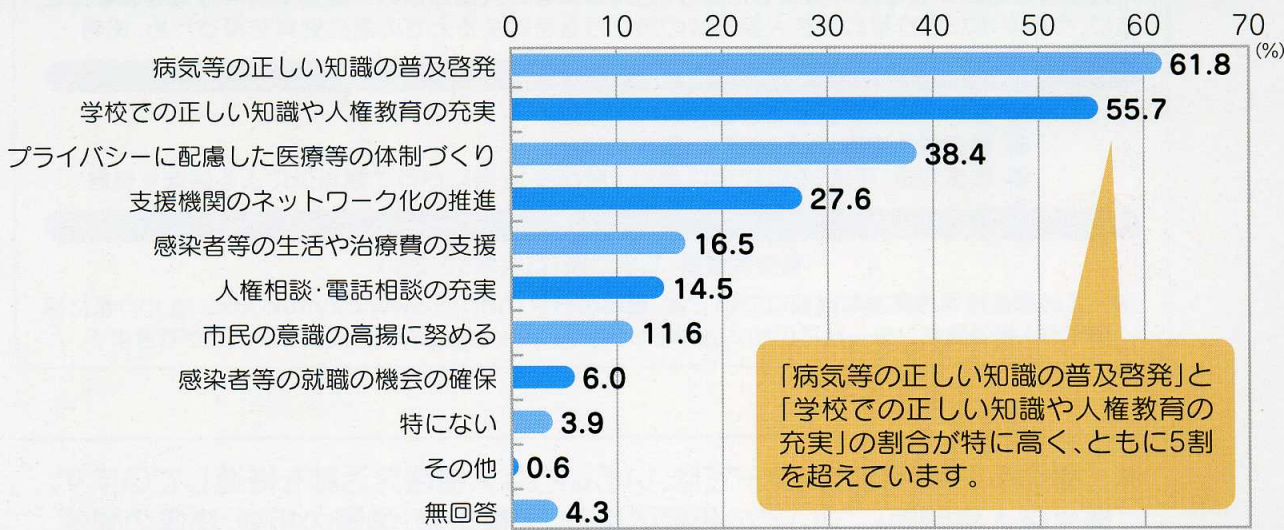




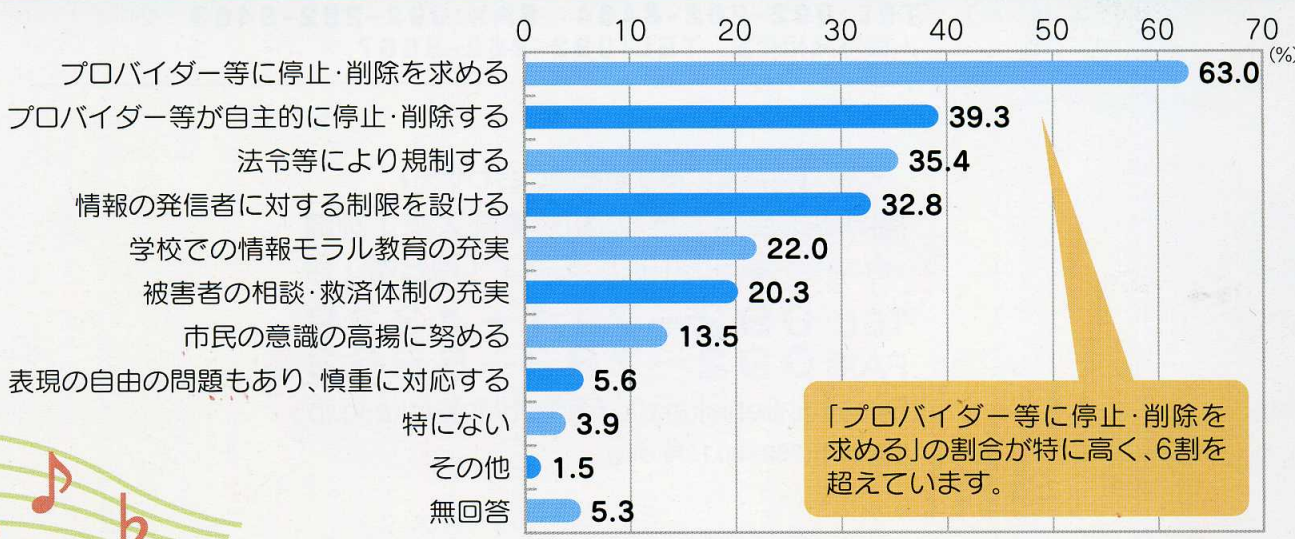
**問 外国人の人権を守るために必要だと思われること(3つまで選択)**



**問 HIV(エイズウイルス)感染者などの人権を守るために必要だと思われること(3つまで選択)**



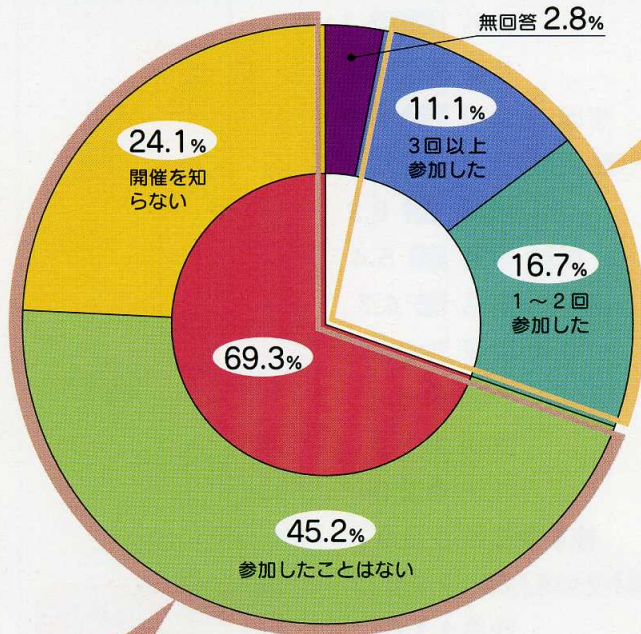
**問 インターネットを使った人権侵害を防ぐために必要だと思われること(3つまで選択)**





# 様々な人権問題の啓発について

## 問 人権に関する講演会・講座への参加状況

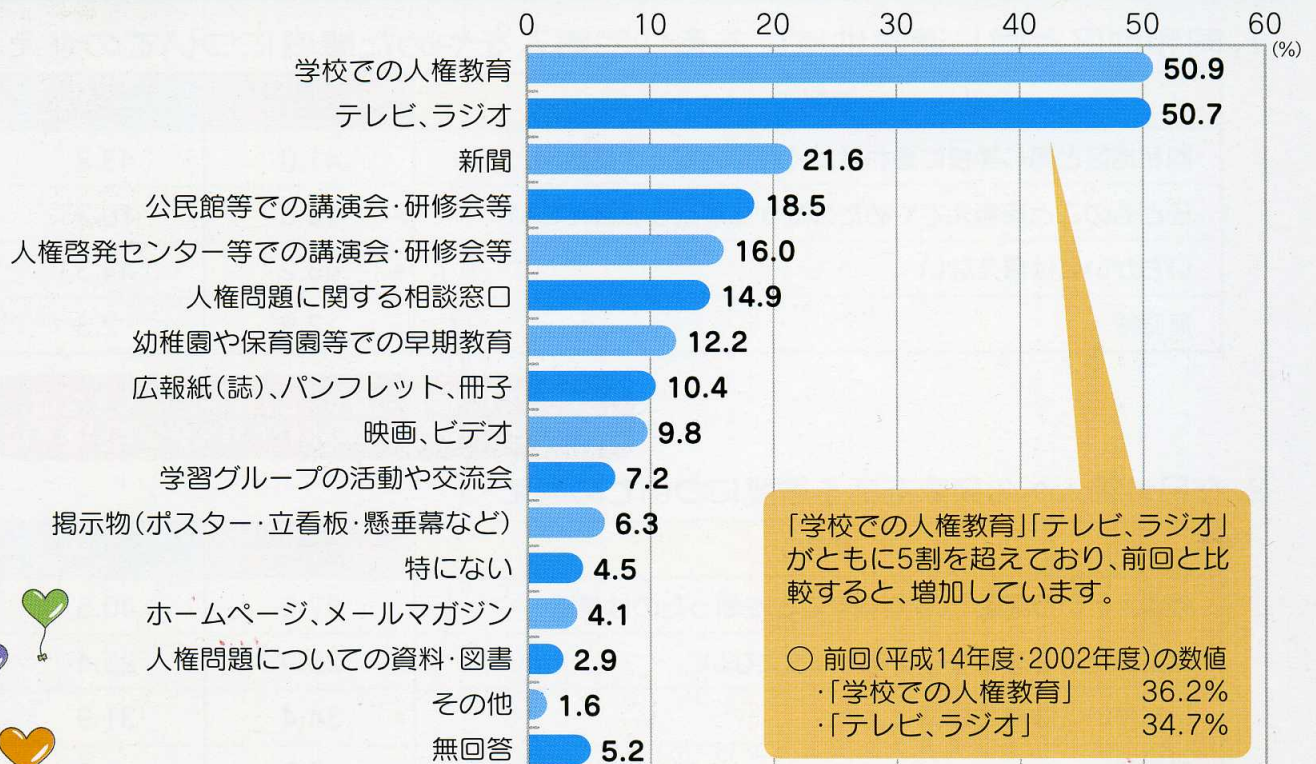


参加したことがない市民の割合が約7割となっています。

参加したことがある方の、参加した講演会・講座の種類は、下のグラフのとおりです。(回答数=518)



## 問 人権問題の理解を深めるのに役立つと思われるもの(3つまで選択)



「学校での人権教育」「テレビ、ラジオ」がともに5割を超えており、前回と比較すると、増加しています。

○ 前回(平成14年度・2002年度)の数値  
 ・「学校での人権教育」 36.2%  
 ・「テレビ、ラジオ」 34.7%



